



六諭所義は琉球の程順則といひし人々

御約しある然るるく小我邦もも傳へ来りし志

久あはせやと尊く單本ありてお月やけの

文符小おさ海りぬきは在り人是とみる本

了流書裡俗淡直は語を用多若とすくめ

為とていましむる本傳は親切なりあま録

在り流布し多人数教誡はとなれしとて

色しある者同其人かこき作被奉りて

書房に命して梓を録しむ然るよいし

編戸の民りやより漢古は文字派さく足智を

し書とよみこもそ忠公ある本わくありし

ふよりしきましく愚民は作くそ大略とて

和語はさくし是とやうき一む本書毎篇の

未と律例と法者又古人は本流派載りて



律例を我邦の法に異同ありて用捨なくして、
 約ひひらきて、その本意は、あつての相違よしして、い
し多々緊要よしとあり、次は、は、二の、お、並
 本書にゆつり、と、愛、又、除、さ、け、る、な、り、き、と、な
進、く、簡、約、し、て、窮、御、下、邑、よ、と、な、る、ひ、職、の、お
あ、つ、れ、め、ま、し、て、常、は、よ、む、は、だ、う、り、よ、さ、や、う、よ
との、義、な、る、處、今、爰、よ、そ、あ、へ、ま、し、と、同、く
 和語より、は、た、し、る、多、を、う、と、あ、は、ら、し、め、と、六、序、と
も、み、よ、と、て、享、保、七、年、壬、寅、の、や、し、二、月、は、季、
 室直清、と、道、成、志、す、と、あ、ら、し、る、り、

六諭行義大意

孝順父母



凡を、間、よ、あ、れ、人、貴、と、似、賤、と、な、る、又、母、の、う、は、
さ、る、人、や、あ、る、而、も、は、父、母、の、出、づ、る、本、な、れ、
本、と、い、ふ、る、尚、ほ、ん、き、幸、な、り、況、や、貴、有、は、恩、也、り、
之、を、う、く、法、より、を、物、う、く、い、く、く、忘、る、處、を、
今、考、心、よ、本、法、ん、や、な、ら、は、父、母、の、恩、を、能、く、持、守、は、じ、
先、十、月、に、間、懐、胎、り、あ、り、母、と、く、り、母、と、く、り、母、と、く、り、
く、生、れ、出、づ、く、幼、雅、は、は、と、父、母、と、し、小、愛、敬、銀、冠、乎、
若、然、、也、常、は、あ、る、風、と、い、ひ、て、抱、う、た、て、
少、後、病、有、く、た、り、け、れ、神、よ、祈、り、醫、を、も、せ、
め、我、身、と、か、ら、り、度、は、こ、ろ、思、ひ、き、こ、子、の、恩、也、
よ、し、て、成、長、す、る、故、論、より、お、の、何、の、教、う、あ、る、そ、子、
稍、長、れ、く、な、れ、は、そ、れ、め、は、師、に、撰、ひ、教、とな、ら、

大正二年二月五日
 中村楠雄氏贈

くせよき人よもなれりと思ひ敬とむをむは
ふの道は縁成りやの婦とむくくはうゆ未と
あひ願ふ父をよ立海しる成みく或を怨
ま友よといひ是或はふ意成那よとあえんこい
すく目よみえね半まそもたえ成んくさくれ
もふくすすく一せのいのみ行半う子れため
ふせぬやある何とれ時う子成存しぬ時やある
是木の厚恩たふひ報しはくますとと妻人
孝約ふして書ふ成り半なるもそ孝約と云へ食
留方賊とどけりう不同けさハ必しも又母れ成食を
法操よせよと云よとあうはきく分限た慈ふ父母
此他後なるやうふすへし父母年だけくはひ成り
側とてあれす出入りたま成ひさううらつと明
寝具よふ成を志けりめ羽ハ省成し父母病あ

らハ益成事とてかす此半とすく有病し諸茶
の半よのこん成あすへしはく一ふ意成成り
半ハいふや父母れ成と孝養すともそん成事
ろくハ大なる不孝とりふ成し何半も父母れ教
判よきうと成を法とおとんしよく成と守り
成とれり成しそ子成かくのよとくなると成てハ
父母の心成いふとの案成いははとのよありこひとある
是と父母の志成書ふと云なりきく書ふ成りふ
つしおしむつしハ父母存生の日なる半と今
は時り成り孝養とてくさすハ父母死しては
小成ともかへる成さやたふ山海れ成成りな
つしよふ成りとも成り成り時成の蔬菜よおとる
へしり成り今成の成り人父母の書成大切の半よ
かもしるや最成此妻子たりとつしよとも妻子ハ

失くすも悔なくたぐひ失て堪へらるる抱
父母なり人孝子たる者乞と抱のをもいづく孝心
成れざるへき今の世やと孝心ありとみぢる人も
大く妻孤めらるる子孤りて教身よなれは眼
妻子は老ふひも道してどりのうら胡夕は初えれた
たふ孤くやとたよも思ふはちよよめらぬ妻子
よあへらつとれく父母の思き半といふはよそ
云ふ身よ入心よけられ已も父母成らとむいよな
りぬるあろつとあさぬしき半なれは初らひ
みよ孤身よはぬ妻と云ふものもれ子と
いふ抱もれは時我と吾首せし人をなよ人も
我と介抱せし人の行人や然も父母よかへて妻子
孤れもあるや何るへき馬の急え人及南とて親
くめなすやとあろあり人せして不存なる人

たる心きえとて會歌よとおとらるぞ只
了ぬくおう教魚き半なり

詩曰

我勸世人孝父母
懷胎十月苦難言
每逢疾病更關心
豈徒生我愛劬勞
子欲養時親不在
莫教風木淚沾襟

父母之恩爾知否
乳哺三年未親手
教讀成人求配偶
終身為我忙奔走
欲報罔極空回首
我勸世人孝父母

子ノヤシハス先ニヨヤノ死スルヲハ
凡ノシテマラス先ニ本ノ落ニタトフ

も忽愛しく仇敵めあやしくいふとあさ海一き半なり又
他人まていしくも年數も父と同輩をも人といふは又
準しくも教ふへしくも兄弟も同輩をも人といふは準也
教ふへしく孔子御村まかりしと一疎の比命ふ少と
いふもてきくはしくみたまふとなり聖人かかのみ
此や帝師乃人かしくも驕りあかしくも教ふもいふ
さしく次坐するともさう下も坐し初時ハ流り釣魚し
海辺も七長上とありしゆの半ありしと長上のおきては
内をせし言言し真も教も教也半するはこれと禮
なる半ありしゆのくをといふし又長上の中もこれ
ゆひ心しく人忠鏡ともなる人いふも及り初を教ふて
人の師道ももなる人といふも是と教ふし又我より
位きめき人たはし年弱しと材徳れしとふとと
すてよしく上もさうの人をさしおさましく長上なり常も

礼儀と存しくあなと教あ病あましく流りもハいしとさう位
なる人賢徳ある人老年なる人も是故三つは建書とて天下小
柄もさうつと教ふし人としりなりはのむも是と時勢
よはしく位なる人といふも是とて老とやまひ徳成
教ふ半とさう次ゆきとさう一徳と半なり

詩曰

我勸世人敬長上
後船眼即照前船
分定尊卑豈可踰
逆理犯上刻難容
傲為凶德自招罪

身先尊敬為榜樣
簷前滴水毫不爽
齡居先後勿宜亢
徐行後長時當講
温良恭讓人盡仰

蒲則招損謙則益

我勸世人敬長上

和睦郷里

凡都鄙と論を以て同郷村に居住する人を先祀
以常と約かたふふ久しく別智ぬまふ志願目む
あるは次を以て他國ありて我古に流人あは
いどなりく親族を思ひとなすて是れ同
郷村の人を常と味畧ます知るる事と為
へいりなれん今の世の人一旦のいりてを
くよよりく日ありてみ成るくもやむ漢か
き事なり或は田宅の界と争ひ或は金銀を債
しりてぬふいりてたてて遂に公事折訟も及
はふ一郷の事もなるかすめ娘をぬふ

我身小願負するのりたりて常小己と乞とて
人成非とて己の利とりのりて人の害成りみ
元より我為此のためとねりふ人ふと同し心なり然る
よ人としてなすけとちらぬを木衣は同し行律も
よと名ひたりて我身ひつと先きつては次を
も人もよきやうもやむ魚とてちりては和睦せ
さらむ位大孝よと家と出すて教を聞よなす
とあまの先我一家のむつとて本やすて父
母は孝行し長上よとてふみちをとおし海すれは
今又いふは及ん次よは夫婦のたかまてはは
妻と去とりては法あると婦人淫乱なる
男婦り流る魚りる又嫉妬ぬくとの盗まなや
法小おろく去へて然もも妻親の存なくと
すはさあやさる我も年あり父母の衰とす

又かよふ貪賊も、あはれまふ富士のあまはたなるも不義此
弁は法ふれおとく去つて次はまの世をみるふ或は妻小
半を去つて常小懇約あるとも去つて次或はその妻より
とれ半なきふ多年の別智と志まてくすしなく離
別するもあつた何世といひし法はたうひある家のたさ
まうちるとりあつて又在家の人父死して父の妻を
妻とするものありし人倫とみたり常法とやあるとい
ふべしそおちちうき親親はほ友の妻やする半何世も
有ゆき半なり凡郷村にある人の先是木の不義を
おすよ冷味を飽しけりくねすしものたといふ常ふ
よりあひふ弟とつてやまうひと問ひ定うたる半と
云なきもむ親親とあつて志實は志成致すべし水火
盜賊ふ免れ難あつた半ふ合力しと随分救援たし
幼穉の懇き人といふ友友も懇ま練へし徳徳あるを

は教ひ隣同ある人を親しみ材藝ある人をいはめあはれは
必法なる人をいおふ誘きあひひよ及ものをもらうあつた
然ふちつむ人をいとひ慰め孤児寡婦老病かこむとな
る人といはれたみあそれと困窮に力れ人をい駈り
あつたあつたは郷の人なりひ合く一家に親しみ
よ同のうんいりし和睦せざる半やあまき

詩曰

我勸世人睦鄰里
須知海内皆弟兄
從來和氣能致祥
東家有粟宜相賙

仁里原從和睦始
安得鄰居分彼此
自古鄉情稱美水
西家有勢勿輕使

偶逢^{ハシ}患難^{ウレシキ}必^{カナラシ}扶持^{セヨ}
同^ト郷^{キョウ}共^ニ井^イ如^ニ至^シ親^シ

若^シ遇^フ告^ク狀^{キョウ}相^ニ勸^ム止^ム
我^ガ勸^ム世^ノ人^ト睦^ニ郷^ニ里^ニ

教訓子孫

此^ノ家^ノ子孫^トを重^シくし、子孫^ノ人^ノからよかれ、家^ノも
存^スり、人^ノもあ^られ、家^ノも善^クく、世^ノもみか^る人^ノの志^ヲ
半^クなれ、大家^ト小^ト家^トと、世^ノに流^ルり、子孫^ノれよきを、
さるるを、世^ノに流^ルり、子孫^ノを、れよきを、
なり、必^ズお前^ノ門^ノ小^トし、主^ノ教^ノ門^ノの法^ハ、幼^キ稚^キの所^ニより、
才^ハ一^トと、父^ノ老^ニよ、人^ノ老^ニ言^フと、年^ヲ乃^チけ、る者^トハ、幼^キ小^ト家^ト
を、うし、め、り、く、之^ノ法^ハ、備^ナり、さ、
は、必^ズお前^ノ門^ノを、り、く、
乃^チぬ、や、う、わ、や、い、す、
先^ノ人^ノを、り、す、
法^ハ

たき、や、う、小^トし、
み、た、り、小^ト他^ノの、
割^リして、自^ラ中^ノ小^トを、
此^ノ欲^ハ、
古^ノより、
之^ノ法^ハ、
浮^キ氣^ノの、
後^ノ日^ノ、
よ、も、
つ、
よ、
り、
家^ノの、

またもなりけり。家内以初る者ともく。なりく。級を昌の
福ともなりぬ。一。近代以来。父祖に於て教訓の法。或
りて。その子孫に於て。つとむと見る。小。た。眼。おの。愛。小。溺
して。一切の飲食衣服言談。奉。初。ま。て。小。鬼。の。氣。地。小。す。る。或
よ。と。ん。と。ふ。より。と。子。孫。た。る。も。の。知。か。より。一。言。の。よ。り。と。さ
法。以。ま。る。一。毛。の。好。半。と。見。ん。る。の。習。り。一。例。と。な。ま。る。の
教。道。と。り。と。好。く。傳。へ。も。礼。義。の。心。と。さ。半。と。ま。る。は。た
ま。る。後。学。文。と。ま。る。む。と。ん。と。も。人。た。る。及。以。教。へ。ん。と。は。せ
す。と。と。ま。る。と。名。利。の。殊。と。す。る。所。小。も。子。孫。た
と。小。学。文。す。と。云。と。も。た。理。よ。お。お。と。何。と。り。自。得。す
へ。き。我。身。に。約。ひ。は。た。お。と。何。乃。益。う。何。ん。ら。の。は。と。小
或。は。貨。財。と。貪。つ。と。或。は。酒。色。と。耽。つ。と。何。ん。と。恐。名。を。以
と。り。身。と。持。く。つ。と。一。身。父。母。と。も。罪。を。と。恐。る。う。か。
又。女子。と。家。よ。ある。と。さ。小。お。訓。に。法。を。く。氣。地。小。て

と。何。の。小。す。と。小。人。と。嫌。し。と。我。以。治。る。半。か。り。た。と。
追。出。さ。る。者。と。世。小。う。れ。を。免。し。何。ん。と。是。必。し。と。
子。孫。乃。と。う。よ。と。あ。り。次。の。の。う。と。教。訓。の。法。た。り。り
所。な。り。と。し。親。の。慈。悲。と。も。う。む。く。と。あ。り。は。や。孔。子
と。子。孫。を。せ。は。若。学。に。や。せ。よ。と。宣。伝。り。む。り。も。あ。る
へ。き。半。か。り。と。

詩曰

我勸世人訓子孫
良玉不琢不成器
寢坐視聽胎有教
黃金萬兩有時盡
子孫成敗關家門
若還驕養是病根
箕裘弓冶武當繩
詩書一卷可常存

養子不教父之過
世間不肖因姑息

愛而勿勞豈是恩
我勸世人訓子孫

各安生理

天地の圃小せうはよの人交然貧富と御すも半なく
人我小あさうする所他あり是より生理小つきて定
する所生理あり所小生理と急はくは生理も急つきて
介をりしめりるを君生理とやせんす方といふなり志
小人の所成りありといふは士と教者小学文を
武藝とせしむるは義理と志は公役とつとむは士
忠生理なり次小農人小耕地つとめありは月やけの
年貢とかりは織人を家産と精くして不肖の習と失
るは商人は賣買といふなり此分此例をりしめ

に都くは小の民もは各志成きりゆりは我
とありする織分此例とめはとつとる家小ありする
衣食ありして一せお極ありして今す一とせ介定り
はる養業なくして肩擔日傭なくしてせとせ大
事のありしやいし流もて天より食物なき人を生
せんとしは是亦の人もかたりの間なくかせきたるは我
小ありたる衣食なりなりなり又女人も生理あり
古一八圃を此名なりははる替は織りて衣服成はるこ
いふは況やうれより以下の人いふはたはるは凡
在家の御女は華練を土のまた地敷を樂しまた若小
扱たりとの儘もは急勤をわくおははるく寐て幸塔を
みつとるは一は是女此生理なりたは羨たはる在る人
男女とも小知かより氣絶小なりたつ所小年長しと
後もたるみかうりて我はありたる織分の幸と公小

おすたたく目おの樂小むれく目とれくもよのれほく
靴中留夫の家よせうく人を習る銀部以程に帯小
袴くろお坂まかしく流くれ、頭振男小すくひ厚味は小
何く、いつまきくもかしくもすくともうねりふらめと正
時後つし勢去ぬきハさ小く富夫ハ一宵の愛となりぬ
目ころ肥媛小くくして何の材藝もなく、世法よらへう
とけさハ漸く小為ゆれて庶民よ下るむむか、よりう
北をぬくなれよあはれすこ身にくねき人北抱樂成
好むあそく一不うくくられ成ハ抱女よきうのあれ成
ハ特爽と好く酒小ひちちと、酒さ空杯家業成す、う
かど移ふ酒とふをくハ家成もつきて朝北、いとなみも
すんきやうなけれ、ねりひ北外小忍半とれくみ野て
貞松小あふも育そか、まこ抱樂成好むよハ何うねとむさう
成分の半と一節小守の心かく、他人の志あをそ成、成

非分の半とのみ祿ふ人あり、いやく思慮成めくす
いとも年老えらう志あたるんをなれハ、遂小半もれ
あふもくもりなく、是亦は必利乃心よりあき、是教
るをちうぬぬなり、元より貧富貴賤を天命定
ましくあれハ、いやく人の力ましくあうう、あき、我
小ありたる職分を初日小好半と約ふく、今よりゆら
ま、成さへく、次、百町北因成持くも目小食するハ三度
よさす、子間北度よ任て、我ハ眠ハ八尺り止まる、せ
あま、小帯小我よ半と教やうと知多、おをり、む教
んあるへく、は、志、うはな、お、う生理成や、出んする、り
なう教、成、き、

詩曰

我勸世人安生理
榮枯得失命安排
妄想心高百無成
藝多不精不養身
皇天不負苦心人
更知徼幸斷難行

索位而行稱君子
士農工商業莫徒
厭常喜新沒終始
遊手好閑窮到底
須知安分能守己
我勸世人安生理

毋作非為

天下小ありゆる半と之竊まりけりといへどもすて
是れの小ありゆる半と之竊まりけりといへどもすて
乃理小背くを罪とす也此ハ非り夫と云ふは誠非也
云なりと今そふ云はるてりよふと忍逆強盗人を云ふ

火と付るやうなるものハ云ふ及りて此女小満き物矣を
た方しハ酔狂とて喧嘩を好み私曲以て人貨財を
貪欲をなみか大なる罪なりと云ふ一そ執りハ一念の
うよりゆき覚悟改悔しむれば月を大忍よも云ふ
所小法以て罪小隨人ハ何れも身はほろほろ一或は
彼の人ありその時よりありある後悔するめとて
我れとて半を我れと受くも禍なれハ誰とてうらみ
誰とてうらみ半小亦車に覆れ或はみくも忍逆荷擔する
んより智白後車のいす一先瓜とて次世の談よも或は
蟲を養ふて起し川を六川とて流るといなり
さ半として早免何かやぬりや何とへきたり
幸ありと禍小の教とていふも何たりたたらんそ外
在りは材智とあり家業とある人持し然とも或ハ
邪智よりと半とをくみ人を欺き或ハ血氣と

しく後世に法成やあるを糸約を考ふる小根月くハ非
為此半小ありあはれはれ又生質柔弱なる人は平生
多うく月日を送るはふたなりく日ころの非成あり
とも多年のやまり来とハ今より改悔とも半のやうな
まのまもともくうち捨ぬる人あり大なる非半をいふ
ゆゑ我人智質小ありはれをれう道なるもむきく一念
發起しとも己う非成ありともむきハ今日よりしてよき人
となすきともハ及小物も肉ふ人忠一きハ是非成物して
刃をき及本及小出るうあやしく又老小人偏成及成れ
つそりふあききく神を信しとも生あり物を祈るもあ
りまきハ佛を信しとも死後のたのしハ成補ふもあはさま
是亦乃人のきめりいとも神ハ吾小禱しハ無小禱すといり
そん誠ありハ祈りすととも守るすともそ約ひ不答ふ
て約れとも何れ益ありあるべきまきハ佛法と惣世成こ

き貪欲といすむ教小祈りすや、はまハ儒及小かたは
神及佛法といふともこかく我身の非成やめ次きくそお
りかあふさくハ半有るういききくハもま小付ても以の
上の非をやめやすくあろの上の非ハや免かしてみえ
たりたとひ介小仁義成しせきく約ふとも強忍れ心を存
せハ人をあこむき得るとも天賦あこむ地成し王法の
罪ハのう教とも神ぬの鑑をうるへうはれハ人乃の
私語は天の聽よは雷乃あうハ在上の密半ハ神の目
ハ電氣といつう何うはそま様まされへき

詩曰

我勸世人莫非為
只因一點念頭錯

非為由来是禍基
詎料終身自喫虧

姦淫賊盜方總起
拖屍露骨身難保
縱然逃得官刑過
及蚤回心猶可救

徒流絞斬即相隨
帶鎖披枷悔是遲
神明報應不差池
我勸世人莫非為

總詩

聖人之道六言是

天下太平此一書

果能實々通行去

便是唐虞三代初

六諭衍義大意跋

世之能學問知義理者姑舍無論已其
餘農圃陶冶取鬻之徒比屋樹畜竈炊
于閭左鄉曲何翅億萬苟無教道以率
之徒知競錐刀事煖飽而已使之服勤
共職亦已難矣况乎物我町畦骨肉相
軋豈可遠以孝悌敦睦之行責之若教
以詩書之言督以聖喆之訓彼將藐乎
不聞褻如克耳曷若以淺近易入之言
誘之使其馴致而至於善為愈孔子曰

不足為疑本此
是字始後之
上之

フシヘテヲコナフ

イニクノメテキニヨ

民可使由之不可使知之周禮有讀法
之會後賢有鄉閭之約所以扶翼蠻序
維持風教亦不過使民由之爾自學校
之政不脩而後獨以號令教天下世主
憂其化之擁闕於下也法驅刑威科條
繁興密網深文以囂民聽則有之未聞
有軫念霄旰託意渙汗諄諄諭民於道
者及明興迺始惓惓諭告之詔常與刑
律並布天下觀夫清帝六諭亦規勝國
而倣為之豈以夷變於夏者耶至於會

誓范鉉就以民俗之語為之行義可謂
善於教諭者其於奉上令下兩盡之矣
本邦表東海號稱君子之國方今遇禮樂
之興文獻輻湊治具畢張而六諭之書
為政議所取於是

特旨并書授臣直清撮其大意譯以國語
遂付有司雕印以行於四方代道鐸之
令惟冀為守令者祇承
德意以令郡縣為下民者朝夕羹牆以訓
子孫更相倡隨陶鎔成化遂將階鎬洛

之治致刑措之隆焉豈小補之云哉
享保七年歲次壬寅春二月二十五日臣
室直清奉

教撰

此一卷亦以寺本氏藏本寫之時霜降月中八日
晚中村直道朱點隨此書寫本也

久保氏藏本
享保七年四月四日終

